

特集：天童市の観光振興策を探る

新たな地域づくりに挑戦

情報発信、異業種連携を強化

「将棋駒といふ湯とフルーツのまち」として知られる山形県の日童市。天童温泉をはじめ歴史や文化、物産などに魅力的な観光資源を有している。その一方で旅行形態の多様化、東日本大震災の影響など社会・経済情勢の変化に伴って、天童の観光のあり方は転換期を迎えている。そこで観光振興の提言をめぐって、地元キーパーソンが集まって座談会を開いた。出席者は、天童市長の山本信治氏、天童市観光物産協会会長代行で天童温泉協同組合理事長の伊藤彰氏（天童社長）、天童市農業協同組合組合長の結城齊氏、天童商工会議所会頭の押野宏氏（天童ホテル社長）、天童温泉観光協会会長の高橋ゆき江氏（松柏亭あづま荘女将）、天童温泉協同組合青年部部長の山口幸氏（米屋ホテル事務取締役）の6人。現状や課題を踏まえた貴重な提言が相次ぎ、天童観光の活性化に向けたまっすぐの方向性が見えてきた。（司会＝東北支局長・平塚真喜雄）

人材育成に「観光学科」設置の提言も

天童市長
山本 信治氏

はじめに山本市長がこうがいます。天童市にとって観光を振興する意義とは。山本 観光はすなわち天童の産業で、旅館・ホテルや運輸などの観光事業者にとまらず、飲食、土産、農産物などの幅広い分野に経済的な波及効果が及んでいる。市の産業振興のうえで重要な。また、観光はまちづくりにつながる。観光を磨くには、市民が地域の資源を見直す必要がある。この作業は市民の地域への愛着、誇りを育むことになる。これがまちづくりの最も大事なことで、「住んでよかった」「訪ねてよかった」と言われるまちづくりが観光を振興する意義だ。

市観光物産協会、天童温泉協同組合としては、観光の現状をどう捉えていますか。

伊藤 宿泊、観光入りの込みの状況は、震災前の状態回復傾向にある。ただし、全国的にそうだと思うが、バブル崩壊以降、減少傾向が続いているし、宿泊単価の下落傾向もある。現状についてはもっと精査する必要がある。震災後は復興に絡む需要などもあり、東北の域内の旅行者が主力を占めている。首都圏、関西圏の旅行者が戻ったかと言えはそうではない。震災を契機に入り込みの動向がどう変化したのかを検証したいと考えている。具体的には各旅館が宿泊客の発地などを把握すること、今後の対応を見据えてくる。地域間の競争も激しくなっている。これを勝ち抜くことが観光の至土命題だ。

天童はフルーツのまち。農協の結城組合長にもご出席いただきましたが、農業と観光のかかわりは、結城 農業振興にしても、

観光振興にしても、天童ブランドの確立が重要。天童市の農産物の年間出荷額は120億円くらい。そのうち80億を占めるのがサクランボラ・フランス（洋ナシ）、リンゴなどの果樹だ。果樹のブランドをさらに高めるにはどうすべきか。そのあたりから観光とのかかわりが出てくる。フランスは生産量が日本一。サクランボラは東根、寒河江とともに山形の主力産地だ。「フルーツのまち天童」を宣伝するためにも、観光事業者とのさらなる連携が必要となっている。

観光振興には商工業との連携も欠かせない。押野 会頭は旅館の経営者でもあるが、観光の現状をどう見えますか。

押野 市長が言うように観光産業はすなわち広い。旅館は、食材や消耗品も多くは地

元の業者から仕入れているし、雇用の面でも従業員のほとんどは市民なので地域に貢献している。旅館は経営の規模が小さくても、地域への経済波及効果は大きい。しかし、旅館にも反省すべきところがある。全国で問題になっているように地方の多くの商店街は疲弊している。天童も例外ではない。旅館の間違ひは、団体旅行全盛の時代に館内に飲食店や土産店をつくり、宿泊客を街に出さなかったこと。宿泊客には天童のまちを歩いてもらうべきだし、旅館はあまりに大きな設備投資の借入金を抱え、その返済のために仕方がなかったという言い訳も分かるが、風呂と食事、観光の現状をどう見えますか。

高橋 お駒会では、市民にもっと好まれる天童温泉にしようという活動を大切にしてください。例えは、2004年の山形フスティネーションキャンペーン（DCC）の時に始めた「女将おススメ」のがんばっている商店やおいしい飲食店、まち歩きが楽しめる散策コースなどを紹介している。現在までに8号を数え、毎月5号を発行している。人任せにせずに女将自身が内容を決め、記事の一字一句にまでこだわり、手作りで発行している。旅行者だけでなく、地元からも好評だ。市民の理解がなければ、地域を挙げたおもてなしはできない

地域が潤うはずだ。

——異業種、地域とのかかわりの話が出ましたが、旅館の女将でつくるお駒会はどう思いますか。

高橋 お駒会では、市民にもっと好まれる天童温泉にしようという活動を大切にしてください。例えは、2004年の山形フスティネーションキャンペーン（DCC）の時に始めた「女将おススメ」のがんばっている商店やおいしい飲食店、まち歩きが楽しめる散策コースなどを紹介している。現在までに8号を数え、毎月5号を発行している。人任せにせずに女将自身が内容を決め、記事の一字一句にまでこだわり、手作りで発行している。旅行者だけでなく、地元からも好評だ。市民の理解がなければ、地域を挙げたおもてなしはできない

観光で地域への誇り育む 山本

強み生かす舞台づくりを 伊藤

農と観の連携で活性化へ 結城

と考えている。

——青年部の考えは。

山口 観光の最も重要な課題がまちづくりだと考えている。地域の目指すところは定住人口と交流人口の拡大。そのために観光を活性化させる必要があるが、市民の力を借りなければ、その目的は達成できない。まずは市民に広く地域の魅力を再認識するための必要がある。天童は「将棋駒」といって湯とフルーツのまちを観光のキャッチコピーにしていますが、魅力はそれだけではない。新たな魅力を掘り起し、それを市民で共有する。市民一人ひとりが誇りを持つて観光を見つめ、情報を発信できるようにしたい。天童を売り込み、観光客を集めるには、観光・運輸事業者の力だけでは足りない。天童観光の課題がいくつかがありましたが、何から

まちづくりのポイントの一つは、景観づくりや温泉街周辺の環境整備だ。ヨーロッパの有名観光地はどれも景観が美しい。歴史や文化に基づいたものが、それだけではなく景観を創出・維持するための制度や地区計画がしっかりしているからだろう。天童は街の温泉地で、海は無いし、全国的に有名な山や渓谷も無い。しかし、今申し上げたような強みがある。それを生かすには、天童らしい景観づくり、環境整備が必要だ。極端な例では、商業施設の看板のサイン、建物の高さや色使いにルールを設けるようなことも検討する価値がある。行政の協力を得て、市民が同じ気持ちになって一体で踏み出すべき、天童はもっと魅力的な温泉地になる。

山口 景観づくりや地区計



将棋駒の生産は日本一。江戸時代に天童織田藩が製造を奨励したのが始まり

手をつけるべきでしよ。伊藤 天童温泉は、昨年に開湯100周年を迎えた歴史のある温泉地。旅館もそれぞれに個性が。高級旅館やリゾートホテル、金銭の旅館、宴会場や結婚式場を備えた旅館などがそろってあり、さまざまなニーズに対応できる。温泉、施設、サービス、料理、交通のアクセスも良い。周辺の温泉地と比較しても劣っていない。これを有機的に結び付けて全国に発信しなければならぬ。全国に数多くある温泉地の中から天童を選んでもらえるように、情報発信の2012年度に観光の情報発信を強化するための事業を実施し、首都圏の消費者を対象にした意識調査などを行った。これらの結果を踏まえて、情報発信の新しいコンセプトを策定しようとしている。これを今後の情報発信に生かしていきたい。

押野 まちづくりも、情報発信も、地域が一致結束して取り組まないと何も進まない。これまでも観光振興のあり方を議論してきたが、どんなに素晴らしい構想や計画をつくっても、それを実行できなければ絵に描いた餅。もっと観光に商工業や農業、地域住民を巻き込む工夫が必要ではないか。真っ先に連携すべきは農業。天童が今、全国に誇れるブランドは、ラ・フランスやサクランボラなどの農産物。これを観光の魅力づくりに活用する。山形県は旅館・ホテルを挙げて取り組む事業で、地域の食材を宿泊朝食に取り入れて宿泊の魅力にしているという企画だ。これから具体的な準備を進めていくが、天童の農産物を使ったメニューも出てくると思うので、注目してもらいたい。

伊藤 農業との連携については、食の部分だけでなく、着地型の農業体験プログラムの商品化などを含めて具体化していく必要がある。へ



天童温泉の夜景。温泉街には12軒の旅館がある。ビジネスホテルは市内に16軒

特集：天童市の観光振興策を探る

天童市のユニークなイベント



人間将棋

鎧や甲冑に身を固めた「駒武者」が、プロ棋士の指駒の動きに合わせて盤上を動く。会場は約2000本の桜が咲き誇る春の舞鶴山。天童が江戸時代に始まる将棋の駒の生産地であることにちなんだイベントで、1956(昭和31)年から行われている。今年は4月20、21日に開催される。



くちびる美人コンテスト

旅館に設置した用紙にキスして口紅の跡を付けてもらい、「くちびる美人」を選ぶ。特産品の紅花が口紅に使われていたことにちなむ。毎年3000点近い応募がある。男性を対象とした部門賞も。今年で25回目。応募期間は6～9月。



2012年のベストリップ



天童ラ・フランス マラソン

主催は天童市、天童市農業協同組合、天童市陸上競技協会。かつての「奥の細道天童ロードレース大会」と「J A てんどうラ・フランスロードレース大会」を統合して始まった。N D ソフトスタジアム山形をスタート・ゴール地点として、種目は男女や年齢別に3キロ、5キロ、10キロ、ハーフマラソン。開催日は11月4日の予定。

天童観光が変わる



天童温泉協同組合青年部部长
山口 幸氏



天童温泉お駒会会長
高橋 ゆき江氏



天童商工会議所会頭
押野 宏氏

——ラ・フランス・マラソンをはじめ天童温泉にはユニークなイベントが多い。もっと集客に生かせるのでは。押野 何と言っても「人間将棋」だ。昭和31年にさかのぼる歴史があり、毎年、春の恒例行事としてテレビのニュースで取り上げられるなど全国的な認知度がある。伊藤 人間将棋はイベントとしてのスタイルは現在の形で完成度が高い。一方で現在の形にプラスして、別の人間将棋を他の場所で開催するとか、サクラボのシーズンにも開催するとか、いろいろな試みを考えていく余地はあるかもしれない。

高橋 天童にしかないイベントとして、天童が口紅の原料の紅花の産地の一つだったことにちなむ「くちびる美人コンテスト」がある。観光客に用紙にキスしてもらい、口紅の跡から唇の美しさを審査するイベントで、今年で25回目を迎える。このイベントも山形DCに向けて盛り上げていきたい。

——クアオルト（健康保養地）を目指した取り組みの進捗状況は。伊藤 市、商工会議所などと連携して進めている。軸になるのは市内の散策コースを歩く健康ウォーキングのプログラム。クアオルトへの地元の理解は少しずつ深まってきたがガイドの養成が課題だ。各旅館に少なくとも1人のガイドを置きたい。これまで座学を中心に研修を重ねてきたが、これからは実際に舞鶴山のコースを歩く。7月からは試験的なツアーも行う。舞鶴山は旅館から歩いて行けるコースで、市が第一期の整備を終えてきれいになった。天童

としては新しい切り口で時間がかかるかもしれないが、しっかり定着させていきたい。高橋 健康、保養といった面で、医療機関と連携できれば、天童らしいクアオルトができるのではないかと。天童温泉の周囲にはさまざまな医療機関がある。それは山奥の温泉地にはない街の温泉地の強みだ。これを生かさない手はない。



天童市は「サクラボ王国」の有力産地

洋ナシのラ・フランスの生産量は天童市が日本一

地域潤し、住民巻き込め DCに向けもてなし充実 高橋

DCに向けもてなし充実 山口

えれば、人材の育成は重要なテーマになる。伊藤 天童高校県立高校に「観光学科」を設けてはどうかと考えている。観光学やもてなし、まちづくりについて学んでもらう。卒業後の受け皿には天童をはじめ上山市、東根などの温泉地の旅館があり、生産は日本一。その天童に生まれたのだから、子どもたちには将棋の指し方、駒の製造について知ってもらいたい。これらも将棋の駒のイメージで天童を売れるのは分らないが、全国的な認知度は今も高い。先人が苦勞して「将棋のまち」と全国に知られるまでになったのだから大切にしたい。

山本 観光振興に関していろいろな課題、アイデアを出してもらったが、何を進めるにも重要なのは人材だ。「観光」まちづくり」であると同時に「まちづくり」人づくりに。将来の天童の発展を考えると、人材の育成は重要なテーマになる。伊藤 天童高校県立高校に「観光学科」を設けてはどうかと考えている。観光学やもてなし、まちづくりについて学んでもらう。卒業後の受け皿には天童をはじめ上山市、東根などの温泉地の旅館があり、生産は日本一。その天童に生まれたのだから、子どもたちには将棋の指し方、駒の製造について知ってもらいたい。これらも将棋の駒のイメージで天童を売れるのは分らないが、全国的な認知度は今も高い。先人が苦勞して「将棋のまち」と全国に知られるまでになったのだから大切にしたい。

山本 すでに市内の小学校には将棋の駒、将棋盤が置いてあり、将棋に親しめる環境づくりに取り組んでいる。ただ、教える方々にはさらに工夫する必要がある。地域の歴史や文化、産業を学ぶことは、観光振興やまちづくりを担う人づくりにつながる。重要な課題としてしっかり取り組んでいきたい。——貴重な提言が数多く出ました。最後に、観光立市の実現に向けた意気込みをうかがいたい。山本 観光振興は行政としても重要な部分だ。先ほど申し上げた情報発信の強化に向けた事業を踏まえ、地元に関

などを踏まえながら、一度ゼ口から考えるべき時期に来ている。そうすれば、新しいものが、天童らしいものが見えてくる。右肩上がりの時代には誰も考えなかったことだ。今を新しいスタイルの温泉地づくりに取り組むチャンスと捉えてがんばりたい。

伊藤 知恵と工夫を出して結束して取り組めば、天童の観光には発展の余地がある。個人旅行が主流になる中でキヤッチコピーやイベントはこれまで通りでいいの、市場とマッチしない商品・サービスはないか。市の事業の成果

係者とともに今後の基本コンセプトを固めた。行政、観光事業者にとどまらず、幅広い関係者の意識を統一して施策を推進し、成果を上げていきたいと考えている。情報発信の強化のほかにも、外国人を含めた観光客の受け入れ環境の整備などにも力を入れ、天童の観光を活性化させていきたい。

や魅力的な特産品、果樹園での農業体験などかわりの深い分野が多くあるの、しっかりと連携して取り組んでいきたい。押野 支持される地域づくり、旅館づくりを進めることが重要だ。かつて輸入自由化の中で海外のサクラボが日本に入ってきた時、安価なサクラボに押されて国内の産地は打撃を受けたと聞いたが、天童のサクラボへの評価は高く、消費者の支持を失わなかった。温泉地も、旅館も競争を勝ち抜ける特色や品質が大切だ。そのうえで認知度がアップするように情報発信を強化していく。商工会議所としても、地域の関係者と連携し、天童温泉が支持されるように努力したい。高橋 市民に観光の重要性

を知ってもらえるように努力したい。観光客が落とすお金が地域にいき渡ること天童全体が潤うことを理解してもらうことも重要。来年の山形DCに向けて、今年6月からプレDCが始まるが、DCの開業を知っているのは観光事業者だけで、市民は知らないといった状況がある。DCをはじめとして観光への取り組みを市民にも広く知ってもらい、市を挙げて旅行者を歓迎できるようにしたい。

山口 市民に愛される温泉地を目指して日々取り組んでいる。旅館をはじめとする観光事業者と市民との距離を縮めて、地域づくりを推進していく。情報発信に力を入れて、6万人の市民全員が天童市のセールのマンになるような仕掛けづくりに取り組むたい。

座談会の会場は天童市美術館。天童市出身の日本画家・今野忠一をはじめ優れた日本美術の作品を収蔵している

～問い合わせ先～

●天童市役所 経済部 商工観光課

〒994-8510 天童市老野森1-1-1
電話(代) 023-654-1111 F A X 023-653-0744
<http://www.city.tendo.yamagata.jp>

●天童市観光物産協会

〒994-0034 天童市本町1-1-2 パルテ内
電話023-653-1680 F A X 023-653-1685
<http://www.bussan-tendo.gr.jp>

●天童温泉協同組合

〒994-0024 天童市鎌田1-3-38
電話023-653-6146 F A X 023-654-7997
<http://www.tendoonsen.or.jp>

●天童市農業協同組合

〒994-0013 天童市老野森2-1-1
電話023-653-5111 F A X 023-653-5167
<http://www.jatendo.or.jp>

●天童商工会議所

〒994-0013 天童市老野森1-3-28
電話023-654-3511 F A X 023-654-7481
<http://www.tendocci.com>